

大量生産への道：我國の總力戰對應努力 (一)

——竹村民郎『戦争とフォーティズム：戦間期日本の政治・経済・社会・文化』（藤原書店、2022.6.10）——

21世紀日亞協會 會長

伊原 吉之助

今後の豫定：單發の書評と、昭和史の講義（獨立テーマで繋ぐ）を混ぜて行きます

- 1) 4月18日 新伊原塾 51 (販)：昭和史Ⅶ：二二六事件：昭和維新成らず
明治維新 → 第二維新 → 大正維新 → 昭和維新（二・二六事件で維新運動消滅）
堀 眞清『二・二六事件を読み直す』（みず書房、2021.2.26） 3600圓+税
田中健之『昭和維新：日本改造を目指した“草莽”たちの軌跡』（學研プラス、2016.3.8） 2800圓+税
谷田 勇『實録・日本陸軍の派閥抗争』（川喜多コーポレーション、2002.8.15） 4600圓+税
- 3) 5月8日 新伊原塾 52 (販)：昭和史Ⅷ：我國の總力戰對應努力 (二)
片山杜英『未完のファシズム：「持たざる國」日本の運命』（新潮選書、2012.5.25/2013.1.15 8刷）
- 4) 6月20日 新伊原塾 53 (販)：書評：兵頭二十八『地政學は殺傷力のある武器である』（徳間書店、2016.2.29)

このほか、わくわくするやうな興味深い新刊書が續々出てありますので、どんどん取上げて行きます。
請ふ御期待！

I. 時事問題からの設問：

- (1) 2月6日/20日 の トルコ大地震は アメリカ が 仕掛けた人工地震……？ → 追記：これは「有り得ない」由
アラスカにある氣象地震兵器 HAARP 電磁波發振装置によるもの……？
エドワード・スノーデンがこのマインド・コントロールをばらした……？
米のエリート・グループが人類の頭腦を支配しつゝある……?? (河添恵子)
- (2) 我國を間もなく（今年中に）飢餓が襲ふ……？
食糧自給努力を怠つて來たため……？ 誰かにさうさせられたため……？
cf. 堤 未果『日本が賣られる』（幻冬舎新書、2018.10.5） 860圓+税
まえがき 7頁：「遠くの判りやすい敵に氣を取られて、近くにゐる一番危険な敵を見落とせば、氣附いた時には全方位圍まれて、あつといふ間にやられてしまふ」
- (3) 日本帝國陸軍は、情報機關を残すべきだつた……
- (4) 2023.3.8 「多極型覇權と中国」（田中宇の國際ニュース解説 無料版、3.8 (水)）：この記事は「更に進む覇權の多極化」の続きです。①前回配信した前編は、ウクライナ戦争の長期化で今後中露主導の非米側が抬頭し、既存の米国覇權は世界の全部から一部へと縮小することを書いた。非米側は 中露の一極支配でなく、BRICS の 5ヶ國などの 諸大国や 地域連合（ASEAN、GCC、アフリカ聯合など）が、力の優劣はあるものの概ね対等に

立並ぶ多極型の覇権体制になっている（少くとも今の所）。何れ、米国側も 単体又は 分裂した形（米/歐/英系が別々に、とか）で、この多極型の新たな覇権体制（世界新秩序。笑）に入ってゆく。そのような、来るべき多極型の世界は どんなものになるのか。中国が 米国に 取って代って中国の単独覇権の世界になるだけだよ、と言いたがる人もいる。多極型なんて不安定でうまく行く譯ないとか、米覇権は強いから崩壊するわけないよ、という マジコ鵜呑みの人もいる。どうなのか。②今後中国が世界を一極支配する単独覇権体制を作るのは頗る難しい。米国は II 大戦後直ぐに単独覇権を確立したが、米国が直ぐやれたのは、それまで100年以上も覇権を維持してきた英国から覇権を移譲されて支配システムを引継いだ（移譲詐欺に遭って乗っ取られた）からだ。米国と 対照的に、中国が 覇権を 構築するなら、それは誰かからの移譲でなく、少い基盤から作り上げねばならない。中国は 既に ユーラシア の 経済覇権体制の 一帯一路とか、ロシアと 共同で ユーラシア を 支配する上海協力機構、非米諸大国が中国に協力して世界を運営できる BRICS など、覇権構築に使えるような国際政治システムを 幾つか持っている。だがそれは総て創設から日が浅く開発途上だ。一帯一路が満足に機能するには あと 10-25年 かかる。上海機構 や BRICS は 合議型の国際体制で、それが 実現する世界は 多極型だ。まず多極型で始めて、何れ中国が他の諸大国より力をつけたら中国の単独覇権に切替えてゆくとしても、実現までに 25-50年 かりそうだ。③抑 単独覇権体制は コスト高で 儲らない。中国は ユーラシア東部、ロシアは 西部、インドは 南部、サウジアラビアは 中東、南アフリカ、ブラジルが 南米を 纏めてゆくといった 多極型の方が 中国にとっても 効率的で、儲かる貿易や インフラ整備、資源開発など中国が 都合の良い状況が作れる。損しても融資が焦げ付く位で済む。焦げ付いても政治的に債務国に恩を売って超長期的に収支が合う。支配・被支配の一極支配より、多極型の方が 双方にとって良い。前編に書いたように米国も、元々大戦を機に世界を多極型に転換して、国連に覇権を渡して機関化するつもりだったが、詐欺師の英諜報界に入り込まれて覇権運営を乗っ取られた。④中国は 古代から明清までの 各帝国が 調子の良い時に、自国周辺の東アジア や ユーラシア を 支配する覇権体制（冊封体制、朝貢貿易）を敷いていた。これは、周辺諸国を宥和して味方につけ、中国の辺境地域を安定させる策だった。中国は地域毎に多様性が強く、中央政府が力を失うと国内の反乱が酷くなり崩壊してゆく。だから 今も中国は民主主義をやれず（選挙すると民意を集めて政治力をつけた各地方の指導者が中央の言うことを聴かなくなる）、多党制にもできず独裁を維持するしかない。そんな感じなので、今後暫く中国は覇権拡大より先に国内の体制を安定させねばならない。中国の覇権は 伝統的に 外国支配でなく、外国に宜しくという善隣外交だ。今の中国も 外国が台湾や ウイグル や 香港の分離独立を煽動して中国の内政が不安定になることを最も恐れている。⑤米国は 2001年の 911事件以降、単独覇権体制を振りかざして支配したので、世界は 覇権を 嫌い始めている。支配を過激にやりすぎた米国が覇権を失い、その覇権を中国が取って世界を露骨に支配すると、中国は世界から警戒・嫌悪されてしまう。これは愚策だ。中国は 覇権を 拡大するにしても、表向き覇権など希求していませんと言いつつ、裏で 隠然と 支配する「孫子の兵法」的なことをやる。露骨に覇権主義をやった米国は馬鹿だった（実は 馬鹿でなく、英国に 牛耳られてやらされてきた覇権を意図的に自滅させ、米国自身を覇権役から解放しているのだが）。米英覇権崩壊後の世界は 不可避免的に、誰も一極支配を好まぬ多極型になる。「米国の覇権を 中国が 取るだけでしょ」と言っている人は浅はかだ。「米国は絶対に崩壊しない」と言ってる人も 米ロパガダ の 軽信者だ。⑥世界経済の発展史の観点からも、どこかの国が単独で全世界を一極支配する単独覇権体制は もう要らなくなっている。単独覇権が具現化する単一市場が必要とされたのは、英国発の産業革命が全世界に拡大定着してゆく200年近くの期間だった。産業革命によって、1800年前後に内燃機関による 船舶と鉄道の世界的な交通網や、電信電話による 通信網が作られ始めた。それらは発達し続け、1970-90年代には大型ジェット機、高速鉄道、自動車や高速道路の技術の確立によって世界的な交通網が完成し、テレビ や 電話網、更にはインターネットと スマホ による 世界的な通信ネットワークも 完成した。世界中が ほぼ同じ技術や サービス を共有する単一市場があり、十分発達できるようにな

った。ここまで世界が平準化すると不可逆的であり、もう覇権の体制がどうでも単一市場が維持される。

⑦英国の単独覇権は、I 大戦前にドイツや米国が英国と並ぶ経済大国になった時点で終るべきものだった。もし英国が単独覇権を解体して獨米日露に覇権を分け与えて多極型に転換していたら、世界は2度の大戦はで発展し続けられた。だが、英国は自国の凋落や覇権放棄を拒否し、米国を味方につけてドイツを潰す戦争を仕掛け、世界大戦になった。多極型覇権より、単独覇権の方が覇権維持のための戦争が起きるので不安定だ。国際連合の多極型（機関型）の覇権は冷戦で壊れたが、壊したのは単独覇権を維持したかった英国だ。単独覇権を完全に解体して不可逆的に多極型にするのが世界を平和にするための最善策だ。

⑧米国は元々中国の発展を助けてきた国だ。英国が欧日の列強を誘って中国を分割しようとした時、そこに割って入って分割を阻止したのは米国だ。清朝が滅びそうな時、中国を民主的な国にするため孫文を支援して中華民国の建国を実現したのも米国だ（中国を支配したがった当時の日本政府は孫文の建国運動を支援せず）。大戦期に日本の中国支配を阻止するため、重慶の国民党を支援して国共合作を仲裁したのも米国だった。米国は、戦後の多極型体制（国連P5）を作る際、日本から重慶に追込まれて勢力になっていた国民党の蒋介石を米軍機に乗せて加印会談に招き、中華民国を5大国の一つにしてやった。米国は何とでも、中国を自国と並ぶ世界の極の一つに仕立てたかった。

⑨そんな米国が豹変したのは戦後、英諜報界に覇権譲渡詐欺をやられて入り込まれ牛耳られてからだ。その後の英米は、金日成を騙して南進させて朝鮮戦争を誘発し、毛沢東が北朝鮮を支援するよう仕向けて朝鮮で米中戦争を起こし、米国の非英勢力が進めようとしていた共産中国との和解策を潰した。国共内戦に敗けた国民党が台湾に立て籠って戦い続ける中台の冷戦構造を作ったのも米国だった。

⑩英国に牛耳られて潰されていた元々の米国（ロックフェラー系など多極型をこっそり希求する隠れ多極主義者連）が復活始めたのは、1972年のニクソン訪中からだった。1960年代に米国は経済力やドルの威力を意図的に浪費し、1971年の金ドル交換停止（ニクソン・ショック）でドルの覇権が崩壊した。これから米国の経済発展に期待できなくなるので、世界経済を回し続けるためには、中国敵視を止めて米国からの挺入れを再開し、中国を早く経済発展させんといかん、という資本家の声が強くなった。それで（隠れ多極主義者達が米覇権の自滅策として泥沼化させた）ヴェトナム戦争をうまく終らせるためという口実を設けてニクソンが訪中し、米中が和解した。当時まだ毛沢東が生きていて文革で中国を自滅させていたので、毛沢東が死んで鄧小平が1977年に復権するまで待ってから1978年に正式に米中が国交回復し、その直後から鄧小平の改革開放で中国の高度成長への道が始った。

⑪中国は米国と肩を並べるほど経済発展したが、同時に米国で英国系（軍産マフィア）が煽動する中国脅威論や中国敵視が強まった。ロックフェラー系など隠れ多極主義者連はこの状況を逆手にとり、米国が過激に中国を敵視し、米国に敵視された中国が安全保障策として経済を米国から切離すように仕向けた。鄧小平の改革開放は、中国が米国の製造業の下請として発展する経済対米従属策だった。中国は儲けたカネで米国の債券を買い、金融主導になった米国覇権を下支えた。胡錦濤時代の中共は鄧小平の方針を守ったが、習近平が方針転換し始め、米国の下請けでなく、一带一路など世界の非米的な諸国との経済関係で発展する戦略を始めた。多極主義的な覇権放棄屋のトランプ政権が、中国の経済対米自立に呼応して、中国を敵視（して強化）する策として経済の米中分離策を始め、バイデン政権も米中分離策を継いでいる。中国経済はどんどん非米化している。

⑫ウクライナ開戦後、2000年から中国と親しかったロシアが米国側に経済制裁されて一気に経済を非米化し、中国もロシアに引きずられる形で非米型の経済システムを強化する策を加速した。中露が米国側（先進諸国）以外の世界中を非米的な多極型の覇権体制の中に引っ張り込み、世界の多極化と非米化を進めている。米国ではウクライナ開戦に同期して、隠れ多極主義者連がインフレを悪化させて米連銀にQE終了とQT開始をやらせ、ドルと債券金融システムをバブル崩壊への道に追込んでいる。後は、ドルと債券のバブル崩壊がいつ具現化するかというタイミングの問題だけになっている。

⑬来るべき米国覇権の崩壊と共に、日本の対米従属も終りを告げる。元々戦後日本の対米従属は、中国より強い日本が再び中国支配を試みぬようにする「瓶の蓋」だった。

昔から中国が内部崩壊すると、日本が中国に進出して支配したがる歴史が繰返されてきた。しかし近年中国が日本より強くなった。中国は今後更に発展抬頭し、対照的に日本は経済的にも、人材的・人々の叡智や技能的にも衰退する一方だ。日本は対米従属をやめても25年位は今の儘のダメさだろう（その後期待）。日本はもう中国を支配できず、瓶の蓋も不要化している。⑭最近韓国が日本に和解を提案中。これは、日韓から米軍・米覇権が撤退する時が近づいているからだ。従来の米覇権下では、日韓が仲違い続け米軍が日本と韓国に別々に駐留し続けている方が米国の軍事費が浪費できて、軍産と隠れ多極主義者の両方に好都合だった。日韓の主流派である米傀儡勢力も、米国との繋りを強くしておくため日韓が別々に米国に従属するハブ&スポーク型の恒久化を望んできた。だが今後は米国が退潮し、日韓は対米自立を余儀なくされ、対立が愚策に転ずる。米国退却後、極東は、日韓が仲良く中国の朝貢国と化してゆく。台湾は話合いで中国の傘下に入ってゆく。⑮北朝鮮は、金正恩が内政転換をうまくやれば、軍部の権力を削ぎ、かつて殺された張成沢の代りになる経済運営の専門家連に権力が移り、中国の傘下で経済発展し、日韓と和解することになる。金正恩がうまくやれぬ場合、軍部が権力を握り続け、緊張緩和と発展への動きがゆっくりしか進まなくなる。韓中とも北朝鮮を追詰めぬよう配慮するので戦争にはならず、緊張緩和がゆっくり進む。

(5) 2023. 3. 10 共和党のアメリカ救国宣言 (AC 通 No. 929, 3. 10) : ① 3月1日から4日まで開催された共和党保守行動大会 (CPAC) は、フロリダ州のサンティス州長が参加しなかったためトランプ支持会のようなものになった。しかし CPAC の行動指針はトランプが8年を経て受けた懸念政治的迫害への復讐ではなく、政府の機関が権力を武器として選挙に介入したことや、バイデンの独裁と国際汚職を認める民主党 DS のアメリカを改造して新しいアメリカを造るという「Save The Republic」救国宣言が主体となるようだ。② 大会ではトランプが過去に受けた数々の迫害と FBI, DOJ などの政府機関が権力を悪用して二度も弾劾し、FBI の武装人員がトランプ別荘を急襲した事件、その他にもバイデン政権の数々の失敗を糾弾したが、他にも早々と2024年の選挙に出馬を宣言したニッキー・ヘイリーや、下院司法委員会のジョーダン委員長、クルース上院議員、ケビン・マッカーシー議員、ジョージア州で惜しくも州長選挙で惜敗した Kari Lake が講演した。③ 中でも Kari Lake はジョージア州のイサマ選挙を不服としてマリコ郡の選挙違法を最高裁に持込んでいる。然も数日前には2020年の選挙でもマリコ郡でトランプ圧勝をバイデン勝利に変えたイサマ計票があったことを2年に亘る調査結果で発表したばかりである。2020年の大統領選挙でイサマがあった証拠が初めて発表されたのである。④ Kari Lake 氏は CPAC 大会に参加する数日前の朝、「ある人物から直面談で、金と社会的地位で彼女を2年の間政治から遠ざける買収提案を受けた」と暴露した。このある人物の提案とは高額なサラリーと、某会社の顧問の地位を提供する代わりに、彼女が約2年の間政治に関与せぬことだという。然もこの人物は金額の多寡に拘らぬ「Name your price」と言った由。民主党の金銭政治と腐敗ぶりはこの事件で判るが、彼女の他にも DS に買収された人物が過去に実在していたかもしれない。⑤ CPAC の主題はトランプの再選と政権を取戻すことではなく、新しいアメリカを造ることである。共和党多数の新国会で議会議長 (Speaker) を務める Kevin McCarthy 議員は CPAC 大会で新しいアメリカを作り民主国家を戻す Save The Republic をスローガンとして講演した。Deep State アメリカの腐敗した政治を改造する作業は、以下の3点に要約される。

- A. 政府権力を武器にした政府機関の摘発と人事、政治の改革
- B. 金と権力の腐敗を改革し、政治家の汚職をなくす
- C. 司法と秩序の回復、暴力と犯罪をなくす

マッカーシー議員の演説では FBI と DOJ その他政府機関が2016年からずっとトランプ妨害を行ったこと、FBI の高級官僚が金銭と権力でメディアのトランプに有利なニュースを抑えたことなどを挙げて、かかる政府機関は徹底的に改造せねばならぬと述べた。

共和党の主張は決して政府打倒ではなく、腐敗した政府の改造である。国民の大半は FBI や DOJ のトップが選挙に介入したことに義憤を感じている。だがこのような改革は大量の公務員の更迭が起きると期待している。

しかし同時に 公務員を更迭すれば 大量の高級公務員が職を失うことになり、彼らは改革に反対投票するから 真の改革は難しい。国会では すでに司法委員会と 監督委員会が FBIの選挙介入の調査に入ったところだが 国会の調査は慎重にすべきだ。

金と権力の腐敗を改善するといえば、真っ先に バイデン一家の国際汚職を徹底調査せねばならない。所が バイデンは 大統領なので 民主党政権は 調査を遅らせたり妨害したり、トランプ攻撃に話題をすり替えたりするので 調査が進まない。民主党は バイデンの 犯罪を知りつゝ 犯罪追及を捻じ曲げて トランプの 犯罪追及で バイデン擁護に 走る。政府自体が悪いことをしているのなら誰がどうやって政府を改革出来るのか。今の共和党にできることは、下院の調査委員会で 民主党 DS の 数々の悪行の調査を進め、摘発が期待するほど進展しなくても 2024年 の 選挙で 政権を取戻し、真の改革に乗出すことである。

「Save The Republic」は かなり強い スロガン である。2024年 の 選挙まで 司法委員会と 監督委員会の 調査が続けば トランプが 出馬せずとも勝てる筈。

II. 第二次産業革命の到来と大量生産方式の登場：

(1) 第二次産業革命：重化学工業化・電化・内燃機関化 → 新覇権の争奪戦へ（帝國主義時代）

① エネルギーの石油化 → 豊富な石炭を持つ先進工業國 イギリス に対する 振興工業國 米・獨の擡頭

cf. 英・米・獨の鉄鋼生産高比率（単位：トン） cf. 大熊 眞『アフリカ分割史』 岩波新書 pp. 46-47頁

1870 5,960 / 1,670 / 1,390

1897 8,796 / 9,653 / 6,760

1903 8,935 / 18,009 / 9,860

1935 10,058 / 34,239 / 16,256

cf. 第三次産業革命：情報革命／コンピューター時代

② 大企業の出現 と 資本の集中：

株式會社の發生：幅廣く資本を集積／巨額資本の危険分散

cartel（企業聯合）／trust（企業合同）／syndicate（流通統制）etc.

(2) 大量生産方式の登場：「アメリカ的製造方式」の發展 → 「豊かな社會」・「大量消費時代」の實現へ

cf. オットー・マイヤー-ロバート C.ポスト（小林達也譯）『大量生産の歴史』（東洋經濟新報社、昭和59.9.20）

① 「アメリカ的製造方式」登場の二つの轉機：

1851. 5. 1～10.15 世界初の萬國博覽會、ロンドン ハイパーク の 水晶宮 開催

「アメリカ的製造方式」は 英の銘：19世紀 半ばに 登場（1851年の ロンドン水晶宮 での 産業大博覽會で 實演
e.g. ホブス の 錠前／コルト の 回轉拳銃／ロビンズ & ローレンス社 の ライフル銃／マコーミック の 刈取機 etc.

米の代表的量産品：シンガー の ミシン／コダック の カメラ／フォード の T型自動車

1876. 5. 10～11. フィラデルフィア萬國博覽會、獨立宣言百周年紀念事業として開催：最新式機械技術を展示 してゐる機械館に 人氣が集中した

1913. Henry Ford, アセンブリ-ライン を 發明し、自動車組立に革命を起す。食肉解體ライン を 逆走させ

Ford system の 源流：砲兵の發射作業。複数の兵による分業の協業

照準（將校）→ 流れ作業（兵）：火薬の装填 → 彈丸込め → 點火して發射 → 海綿棒で掃除

② 「アメリカ的製造方式」の特徴：

(1) 専用機械の採用

→ Adam Smith の 分業論の徹底化

(2) 高度な標準化：作業手順の整理／作業の科學的管理」

(3) 互換性部品の採用：規格化

③ II大戦後、Fordism (Ford system) に對して トヨタイズム が 登場……

(3) Fordism 登場の真相：

以上は學者による跡づけ整理。Fordism 登場 の 真相は 以下の通り：

ソレンセン (福島正光譯)『自動車王フォード』 (角川文庫、叢44.2.28) 210頁

① ハリー・フォードは大量生産については何もアイデアを持つてゐなかつた。彼は澤山の自動車を造りたいと考へ、さういふ決意をしてゐたが、どうやればいいのかの構想は持たなかつた (154頁)。大量生産に欠かせぬ工作機械と、多くの補助的な設備を伴ふ流れ作業による最終組立ラインが生れたのは、より一層の生産性を擧げるため断えず實驗と工夫を凝らしてゐた組織からであつた (同)。

② フォードの大量生産方式：伊原の纏め

(1) 生産方式とは、現場の「必要」に應じてどんどん成長する「組織」

(2) 「より多く」といふ「目標」が、それに沿つた「組織」を育てて行つた

(3) Ford に 目標 (「安い車を一般民衆に届ける) はあつたが、如何にしてそれを實現するかといふ手段も方法も判らぬ儘だつた

(4) その「目標」を Ford と 彼が集めた グループ は 試行錯誤で實現して行つた

(5) 「食肉工場の解體作業」の逆をやつて組立てたといふ Ford の 説明 (ソレン、154頁) は 後世の説明

(6) ソレン曰く、「我々は功績を讃へられてきたほど賢くはなかつた。我々がやろうとしたのは、Ford車を發達させようとしたことだけだつた」(158頁)。「初めに業績があつて、後のその原理と哲學の論理的表現があつた」(同)

(4) 竹村民郎『戦争とフォーティズム：戦間期日本の政治・經濟・社會・文化』 (藤原書店、2022.6.10)

① 目次と頁數

第一部 石原莞爾における世界最終戦争への視角

第一章 フォーティズム、統制經濟、軍の合理化 23

第二章 「世界最終戦争論」とフォーティズム 38

第三章 東亞聯盟論および熱河作戦にあらはれた航空機・戦車・自動車・歩兵の複合 54

第四章 帝國の産軍複合體構想とフォーティズム：永田鐵山・石原莞爾を中心として 73

補 論 石原莞爾の王道主義についての歴史的究明 106

第二部 利權コンツェルンと兵器生産：大河内正敏「農村工業」に關連して

第一章 農村解體の危機と農村の工業化 133

第二章 農村の工業化 148

第三章 高賃金・低コストの經濟：フォーティズムに對抗して 162

第四章 「科學主義工業」と航空機生産 178

第五章 原爆計劃と科學動員の展開 196

第三部 帝國陸軍の合理化とフォーティズム

第一章 帝國の危機におけるヴェルサイユ派の分裂 215

第二章 國家總動員體制成立期における陸軍省動員課長永田鐵山の役割 220

第三章 軍用自動車保護法制定期における日本フォード・日本GMの優位 226

第四章	フォーディズムの受容と文武官僚の役割	235
第五章	思想革命としてのフォーディズム	244
第六章	帝國における装甲機械化兵團運用理論と戦車テクノロジー	259
第四部	世界大恐慌への対比としての帝國における産業合理化	
第一章	岸信介の生ひ立ちから農商務省入省まで	283
第二章	岸信介はドイツ産業合理化調査で何を見たのか	301
第三章	産業合理化運動の環としてのフォーディズム	315
第四章	商工省に現はれたテクノクラシーの相剋	332
第五章	石橋湛山の産業合理化批判	357
第五部	帝國が支配した港都大連	
第一章	視聽化された滿蒙：舊滿洲で開催された大連勸業博覧會	377
第二章	公娼制度の定着と婦人救済運動	449
	むすび	481
	→ 以上、500頁の 大著	

② 要 點：

- 23 フォーディズム fordism とは何か？
 A型 → T型で行き着いた「流れ作業」による大量生産方式
 ほかに「部品の標準化」「八時間労働制」「一日 5ドルの最低賃金制の採用」etc.
 → 年産能力 180 万台を達成
- 25 fordism の 技術的側面 (内田星美『産業技術史入門』 日本經濟新聞社、1974)
 (1) 自動車工業の發達 → 内燃機關の發達
 (2) 高度大量消費社會に適應した自動車が誕生。自動車専用道路も發達
 (3) ford system の 大量生産方式 の 波及：家電、兵器、工作機械、機械部品、金屬材料etc.
 (4) 自動車内燃機關の發達 → 航空機の發生・發展
 (5) 内燃機關の發達 → 石油産業の發達
- 26 I 大戰後に於る 各國の經濟體制
 → 1929 世界大不況 → 各國の經濟後退：
 佛 1911/米 1905-1906/獨 1896/英 1897
- 27 1931.7. 英、マギン報告 發表。世界各國は、計劃經濟と結合した産業合理化を實施……
 1920年代に於るドイツ自動車産業に於る 合理化：「アメリカン システム による 生産過程の改造」を 實現
- 29 cf. ソ聯の第一次五ヶ年計畫 (1928-33) → 第二次 (1933-37) …… 農民・農業を犠牲に……
- 34 軍の合理化： cf. リアル・ハート『近代軍の再建』 (岩波書店、1944) → 航空機を高評價
- 35 ハートこそ、兵器革新 と fordism の 深い關連を誰よりも理解した軍事評論家
- 38 第二章 「世界最終戰爭論」とフォーディズム
 I 大戰後に於る 軍の合理化 → 日露戰爭にみられなかつた劃期的新兵器の登場：毒ガス化學兵器、
 火器の威力の極端な増大、無煙火薬、重砲戦車、飛行船、短距離戦闘機・爆撃機・偵察機等の軍
 用飛行機、強力な装甲を持つ戦艦・潜水艦等の登場
 軍事問題の根本的再検討が行はれたこと

- 40 我が陸軍の合理化：航空兵科獨立＝濱松・屏東の二個飛行聯隊 増設（うち一個聯隊は爆撃隊）
一個戦車聯隊（久留米）／一個高射砲聯隊（濱松）／一個台灣山砲聯隊（台北）／陸軍自動車學校（東京）／陸軍通信學校（神奈川）／陸軍飛行學校（三重・千葉）
- 41 → それでも、空軍の編成裝備の實質は、列強諸國の水準に著しく劣位にあつた……
我國の兵器生産體系の貧困：航空機、機關砲、戦車、高射砲、山砲カノン等の新兵器は、殆ど全てが歐米の兵器生産産業の系譜がついてゐた → 我國兵器生産體系の貧困……！
20世紀初頭の我國軍の大變質：薩長の軍閥 → 陸大エリート 0 軍閥
→ 1920-30年代の派閥係争：陸大閥 vs. 非陸大閥（青年將校閥）
伊原註：陸大教育の戰術偏向が悔やまれる。戰爭論こそ教育さるべきだつた……
國際政治・國際法・國際經濟等々……
- 【ドイツ駐在武官としての石原莞爾】石原莞爾の讀みは「いしわらかんじ」旅券の署名が wa
伊原註：私は分厚い石原傳を皆讀んでゐて一通りのことは諒解してゐるが、石原を理解してゐる譯ではない。未讀の渡邊望『石原莞爾』（言視舎、2015. 3. 31, 2700頁+附）が良書のやうだが、近く読むにしても、このレジュメには間に合はない
- 42 1918. 11. 陸大を二番で卒業（二番なのは、御前講義をさせぬため……?）
1920. 4. 中支派遣隊司令部附として漢口に赴任：特務機關の情報將校。板垣征四郎少佐と同職
1921. 7. 陸大教官
1922. 9. 軍事研究のためドイツ駐在、ベルリン大學教授 Hans Delbrück に 歐洲戰史を學ぶ
- 43 この學習により、將來の決戦戦争と持久戦につき考へるやうになつた……
また、I 大戦で演じられた航空機の活躍から、航空機の大きな役割を認識した……
日蓮の終末論的予言の影響：『撰時抄』（1275）で 將來「前代未聞の大闘争」が到來し、その後「一天四海皆歸妙法」の平和状態が訪れるとの「歴史的宿命觀」に感銘
- 44 1923. 9. 1 關東大震災：日蓮の予言通り、世界の終末が迫つてゐる證……?
9. 4 妻への書簡：「數十年後ニハ必ズヤ一閭浮堤未曾有ノ大闘争在ルベク、ソレ迄ニハ日本ノ物資力モ大ニ充實セザルベカラズ」
- 48 石原の戰爭論には、近・未來戦についての主觀と獨斷が意外に多い……
- 49 【石原莞爾の「最終戰爭論」】
1924. 8. 石原莞爾、少佐に進級
10. ドイツ駐在武官を免ぜられ、再び陸大教官に轉補。シベリヤ鐵道經由で歸國
- 52 石原の講義による陸軍統制派の意思統一：滿蒙領有、國防國家・國家總動員體制形成、フォーティズムと統合した兵器體系の合理化etc. の政策形成
- 54 第三章 東亞聯盟論・熱河作戦に現れた航空機・戦車・自動車・歩兵の複合
【石原莞爾の滿洲國獨立論】
1929. 7. 板垣・石原が關東軍參謀に、對ソ戦に備へた北滿の偵察旅行を實施
三日間の滿鐵車中で石原は「國運轉回ノ根本國策タル滿蒙問題解決案」を提示
- 57 滿蒙占領論 → 滿洲國獨立論（「民族協和」による「王道」主義）
- 58 【東亞聯盟と王道主義】
石原の「昭和維新論」：明治維新に於る 西郷隆盛の「敬天愛人」と結合した 王道主義思想
- 61 問題：“滿洲だけでは資源が足りない、北支の資源も必要”（統制派の基本認識）

- 62 關東軍の熱河作戦と機甲部隊
1927. 7. ~ 熱河作戦の成功因：機動作戦の全面的展開。飛行機・自動車・戦車・無線電信等の機械化部隊の活躍による「神出鬼没」の活躍
- 68 熱河作戦に初登場した戦車：八九式中戦車（最高速 25km）・九二式重装甲車（同 40km）
- 70 走行速度の速い後者が僅か二輛ながら大活躍。だが装甲 6mm では支那兵のモーゼル小銃・マキシム機銃にも貫通された
- 73 第四章 帝國の産軍複合體構想とフォーディズム
永田鐵山と石原莞爾
1934. 3. 永田鐵山、陸軍省 軍務局長 就任：統制派將校と各官廳の官僚との連携による研究活動 活性化
皇道派將校：滿洲＝單なる對ソ前進基地
統制派將校：總力戦の基地として統制經濟の整備・資源確保などを考慮
- 75 相澤三郎中佐は、國防動員の設計者兼技術者を陸軍から奪ひ去つた……
永田鐵山グループは滿洲國成立後は「フォーディズムと結合した産軍複合體構築に基く日滿國家連携を目指す」であつた
石原莞爾と日滿財政經濟調査會
1935. 8. 石原莞爾、參謀本部作戦課長に任命：北滿への兵備充實+航空兵力の充實を企圖
滿鐵の東京駐在員 宮崎正義に依頼して滿鐵調査會を設立（私的機關）
宮崎は「國家統制分野」と「非統制分野」を分ける柔軟性を持つてゐたが、結局、ソ聯の Gosplan の影響を受けて過大な「五ヶ年計劃」を打出し、現實性を欠いた
→ 生産力擴充計劃設定
1935. 10. 石原參謀本部作戦課長の永田鐵山刺殺への行動：
- 81 日滿財政經濟研究會が配布した「石原計劃」：自動車、石炭液化計劃etc.
- 87 鮎川義介と「石原ファン」との連携
1937. 7. 支那事變 勃發：軍需物資への需要激増 → 資材・技術者の獲得が至難となる
→ 石原莞爾：不擴大論／東條英機：華北の資源支配論で衝突
- 91 岸信介、日産の滿洲移轉を構想：鮎川は渡米して米資本 10 億借款導入を構想
→ 1937. 12. 12 パナイ號撃沈事件、1940. 9. 27 日獨伊三國同盟などで潰れる
- 99 「世界最終戦論」と「經濟的國際主義」の破産
- 106 補論 石原莞爾の王道主義についての歴史的究明
はじめに
- 107 マーク R. ピーティ『「日米對決」と石原莞爾』（たまいらぼ、1993）
- 108 石原莞爾の多面性：軍事史家、高級參謀、戰略家、謀略家、汎アジア主義的天皇主義者、宗教家
- 109 辛亥革命と石原莞爾：喜び → 失望。漢民族は近代國家形成能力なし……？
113 → 滿蒙占領論から滿蒙獨立論へ。五族共和の理想郷へ
- 120 王道國家の幻想
- 121 協和會と東亞聯盟

第二部 利權コンツェルンと兵器生産：大河内正敏「農村工業」に關連して

第一章 農村解體の危機と農村の工業化：石橋湛山の農業改革との對比において

133 産業組合による農村經濟復興

I 大戦で我國經濟界は未曾有の好況 → 戦後、深刻な反動不況を経験

恢復しかけた時に、未曾有の關東大震災に際會……

經濟界は事業萎靡不振、金融甚だしく梗塞し、銀行の破綻續出、殊に農村は疲弊困難の極……

我國は、I 大戰により、重化學工業が漸く發展し始め、「農業国」→「工業國」へ急展開……
だが農業の合理化は甚だしく遅れてゐた……

- 135 農業人口 2694萬3000人 → 内地全人口 の 約48% 零細な家族經營による 小農經營 自作農は 1/3足げ
他は 小作農~自小作
石黒農政：農村救濟政策を推進
- 136 石橋湛山：『新農業政策の提唱』→ 數多くの農業政策論中の「白眉」
「我國の識者の言論の全てが甚だ悲觀的……天恵に乏しい、行詰り、人口過多等々……」
「就中此弊を受けたる最も甚だしきが農業……。自立不能、保護関税必須。低利資金を要する。
國家の力で自作農創定を要する、云々」
- 138 石橋は、日本勸業銀行の調査を克明に分析して「我耕地地主が收得する賃貸純益は斷じて利廻り
の低きものにあらざること」を證明した（上巻、14-16頁）
小作農家の劣等性についても、その誤りを指摘（上巻、47頁）
- 140 そして曰く、農業を産業として成立させる條件は以下の二つ、
(1) 不合理な地價騰貴を抑制し、不合理に高價な地價の引下を策す事
(2) 農業の經營効率を増進する事、就中勞力の適切なる分配を圖る事
「國土狹小・日本貧弱宿命論」への石橋の批判：これまでの對應が誤つてゐただけだ、と
- 142 「我國は如何にも貧乏に相違ない。併し乍らそれは所謂天恵が足りぬからではなくして、人工が
足りぬからである」（上巻、110頁）
「要は歐米に生長した儘の産業の跡を追はず、日本の天然に相應した獨自の方法を發明する。此
目的に國家の全力を傾注する、之が我産業の唯一の振興策で、而して我一切の政策を決定する方
針でなければならぬ」（上巻、111頁）
- 143 → 1920年代に於る 農業振興策の白眉（著者評）
石橋の次の指摘は極めて重要！
「軍國主義の打破。單に財政上から言ふても、總歳出の三割或はそれ以上も軍事に費す有様では、
到底産業の奨勵は出來ない。のみならず、此軍國主義の爲めに、我國は隣邦から疑はれ、例へば
支那と産業に於て十分の提携が出來ない。支那は實に我國産品の市場で、又我原料供給の大寶
庫だ。之と手を握り得なくては、我國の産業は駄目だ。國産奨勵者は宜しく是に着目し、軍國主
義打破に先づ全力を注ぐ價值がある」（上巻、127頁）

第二章 農村の工業化：大河内正敏（新興コンツェルン理研の主宰者）の人と思想

- 152 大河内正敏と「農村工業」：「農村振興に関する一考察」（工政會：叢 1918.4.）

以下、時間の節約のため、付箋を添付した箇所のみ摘記する。つまり「拾ひ読み」となる

第五章 原爆計画と科學動員の展開：農村工業の軍需工業への轉換

- 196 大河内「一にも二にも三にも船」の緒戦の時代 から「一にも二にも三にも航空機」の時代へ
197 農村工業式の分散式部品加工による軍需品工業の確立こそ、實に今日の最大急務……

大河内は、高度国防國家のための生産第一主義の立場に轉換した……

198 日本の原爆開発と「理研」

1940. 陸軍航空技術研究所の陸軍中將 安田武彦 は 通勤列車の中で會つた仁科から原爆製造の用意ありと傳へられた…… → これが日本に於る 原爆研究の發端

1941. 4. 安田は理研所長の大河内正敏に原爆研究を依頼、大河内は仁科にその検討を命じた

1942. 12. 「10%235U で 黄色火薬 1萬8000トンの相當の爆彈ができる。10%205 を 作るには 6kgウラン・ガスの 熱擴散による濃縮が 適當」と 回答。陸軍航空本部 は「二號研究」(原爆研究)を 理研に正式依頼した
「二號研究」は 安田 (航空本部長 に 兼) と 東條英機 首相 兼 陸相 との 密接な連關 の下で 進められた
→ 日本の原爆研究に關して、私は以下の二冊を持つが未讀：

ロバート・ウィルクス (矢野義昭譯) 『成功してゐた日本の原爆實驗』 (勉誠出版、2019. 8. 12) 4500圓+税

矢野義昭『世界が隱蔽した日本の核實驗成功』 (勉誠出版、令和元年/2019. 10. 15) 1800圓+税

陛下は、終戰の年に、「まだそんな研究をやつてゐるのか、さういふ殘虐な兵器は我國の國體からして開發に手を染めてはいけなと止めた筈だ、皇祖皇宗の傳統に背く」と 絶對反對の意思を表明されてゐる

第三部第二章 國家總動員體制成立期における陸軍省動員課長永田鐵山の役割

220 1928. 1. 19 木曜會第三回會合で 石原莞爾報告「我が國防方針」：「近世戰爭發達景況一覽」配布

221 1928. 10. 石原莞爾、關東軍參謀 (作戰主任) として赴任

223 當時の陸軍の課題：滿洲問題の解決+總力戰體制の構築

總力戰體制構築に積極的に取り組んだのが永田鐵山 (1935. 8. 12 相澤三郎に斬殺さる)

224 永田は國家總動員の基礎として、規格の統一・各種方式・制式・度量衡等の統一を重視

→ 標準化された商品の大量生産方式へ。内燃機關・自動車・戰車・航空機の國産化・量産化
永田鐵山こそ、軍の機械化・フォーティズム との 結合への道を開拓した先驅者。更に、自動車から「機甲」への道を構想した先覺者でもある。永田鐵山の再評價は、陸軍兵器體系合理化の問題と新フォーティズムとの結合の問題とを結びつけて考えることが鍵。この二つは決して別々に考へてはならない

第三部第五章 思想革命 としてのフォーティズム：永田鐵山、原乙未生 (とみ)、リデルハート、J. フラー、ハイツ・ゲアリアン

245 宇垣軍縮 → 陸軍の機械化が著しく進展

1925. 4. 戰車隊 (本部・戰車一個中隊) が久留米の第一戰車隊と歩兵學校教導隊に ぞれ 新設
各戰車隊 の タク は 外國製：英 の ホバット タンク 3輛 + 佛 ルー の FTタンク 5輛

246 戰車の研究開發擔當：歩兵學校 (戰車は 歩兵の補助機關……!)

陸軍省が原乙未生大尉に國産戰車開發を下命。原大尉の所屬する技術本部車輛班 は 12名
當時米國の新戰車開發班 の 編成は 三桁人數!

247 永田鐵山『新軍事讀本』と讀書の大衆化

我國では、滿洲事變を契機に、軍國主義時代に即した「處世術」を求める人々が激増……

248 我國の讀書の大衆化時期：I 期=元禄時代 / II 期=昭和初期 の 圓本時代 / III 期=滿洲事變後 の 1930年代

永田鐵山 の ハウソウ本『新軍事讀本』：廣汎に互る國防軍事知識を巧に按排し、平易通俗的に書下して
神技に近いと絶賛された。青少年の教練に對する實用知識を盛込んだ平易な讀み物

251 1933. 3. ~4. 關東軍が實施した熱河作戰：日本の戰車が歩兵部隊を支援して活躍した初の作戰

252 永田の問題點：戰車を既存の歩兵・砲兵の協力武器と見做している處 / 獨立使用を考へてゐない

- 272 原乙未生の回顧と反省
- 276 日本の戦車：車輛としては優秀／武装と装甲が不釣合に貧弱／作戦部と技術部に意思疎通なく、至當な決裁者が不在／技術部は従順なる受注者の立場で、作戦部の要求条件は絶対／然も平時的預算に縛られて質より量を欲し、輕量にして廉價を要求したため装甲と火砲の貧弱を忍ぶことになつてゐた／加ふるに滿洲事變・支那事變に於て劣等裝備の相手に對する安易な戦闘に馴れて、裝備・編成・戦法の改善を怠り、大東亞戦争ではそれが禍となつたのである。實は本書に見る如く、戦争の進展に伴ひ戦車も牽引車も最善を盡して改良し、九〇式野砲屋高射砲を搭載した主力戦車が完成してゐたが、統帥部が採用の時機を失し、部隊に渡らなかつたのである。第一線の難局に奮闘した戦車隊の大多数が隊長以下玉碎の悲運に遭つたことを知つて斷腸の思ひがする……
- 277 原乙未生は、國産戦車の出發點として、20世紀の資本主義を特徴づける概念「フォーティズム」と新テクノロジー理念を肯定する立場を確立し、その現實的な合理的な態度を通じて、陸軍機械化への手懸りを與へた。……特筆に値するのは、ハイツ・ゲアリアンをドイツ国防省軍務局軍事輸送課に訪ねてゐること……原は……日本の軍部の裝備・編制、戦法の非合理主義を批判してゐる
- しかし日本軍部は、フォーティズムと結びついた機甲理論や戦車技術の概念には價値を認めなかつた。それらの概念は、參謀本部を根強く支配した「歩兵本位」思想によつて弱められ、更に「預算」に縛られ、「質より量を欲し、輕量にして廉價を求めたために装甲と火砲の貧弱」状況が生じたのである。

第五部第一章 視聽化された滿蒙——舊滿洲で開催された大連勸業博覽會

- 397 滿鐵調査課秘密文書にみる滿蒙認識
- 402 1920年代 國際經濟戦の實態：滿鐵の調査資料によれば、滿洲に於る米國經濟勢力の増大が顯著……
- 403 滿鐵はワシントン體制下米國經濟勢力が北滿に目覺ましく發展してゐることに注目……
滿洲に於る國際經濟戦の基軸は日米兩國の對立にありと想定してゐた……
- 404 『滿鐵調査資料』が滿洲に於る最も強大な經濟勢力として警告してゐたのは二つ、
「英米トラスト煙草會社」（以下「英米煙公司」）と「スタンダード石油會社」（以下「美孚洋行」）
- 406 『滿鐵調査資料』：今日支那人にとり切實大需要品たる煙草、石油及び洋蠟等を殆ど彼ら外人が獨占しつゝあるは吾人の羨望措かざる所である。而も如何に僻陬の地と雖も殆ど彼らの手を染めざる所はなく其の活動次第に依つては實に怖るべきものがある
→ 石油も煙草も日本に産せず／技術低位／特許の保護法を獲得できず → 日本品に競争力なし
もう一つ、滿洲に於る歐米の文化事業（教會、學校、病院、養老院、孤兒院etc.）の影響力擴大の下で、その經濟勢力が目覺ましく地域に浸透してゐることの危險性を指摘……
滿洲に於る日本の優位は、1920年代に於る外國人の文化事業の目覺まい浸透により揺らぎ始めてゐる……
日本の弱點：中國の民族運動の昂揚を宥和する目的を持つた文化事業の取組が略皆無に近いこと
- 407 つまり、歐米の優秀な文化力に比肩し得る文化力を持たなかつたこと
滿洲に於る日本の文化力の貧困は、強力な文化事業と聯繫した米英の在滿勢力の前に屈伏せざるを得ず
『滿鐵調査資料』の結論第八章の提言：(1) 商人の自覺と商品の改造、(2) 邦商發展助長機關の完備、(3) 病院の設備、(4) 在滿日本人の健康保障のための病院設備擴充／子供の教育問題解決の前提としての地域の小學校設備の改革

【追記】今回のテーマの中核は、「昭和十年代の日本」である。そして、その雰囲気をも明確に表明して

るるのは、歌曲の變遷である。歌曲の若干を並べてみると、前半は明るい、後半は勇ましいが、しみじみとした秀作も混じる。その劃期は、昭和十二年の支那事變である

【若干の實例】各行冒頭の數字は「昭和年代」

- 8 東京音頭 (ハア~ 踊り踊ら ちよい 東京音頭 ヨイヨイ 花の都の // 眞ん中で) 西條八十 詞・中山晉平 曲
- 11 忘れちゃいやよ (月が鏡であつたなら) 最上 洋 作詞・細田義勝 作曲・渡邊はま子 歌
- 11 東京ヲガテ (花咲き 花散る宵も 銀座の 柳の下で) 門田ゆたか 作詞・古賀政男 曲 神戸一郎 歌
- 11 ああそれなのに (空にや今日も アドバルン さぞか 會社で今頃は) 星野貞志 作詞・古賀政男 曲 美千奴 歌
- 12 青い背廣で (青い背廣で 心も軽く) 佐藤惣之助 作詞・古賀政男 作曲
- 12 愛國の花 (眞白き富士の 氣高さを) 福田正夫 作詞・古關裕而 作曲
- 12 愛國行進曲 (見よ 東海の 空明けて) 森川幸雄 作詞・瀬戸口藤吉 作曲
- 12 露營の歌 (勝つてくるぞと 勇ましく) 藪内喜一郎 作詞・古關裕而 作曲
- 13 海ゆかば (海ゆかば 水漬く屍 山ゆかば 草むす屍) 古歌・信時 潔 作曲 ミラミレの 日本民謡古譜
- 13 支那の夜 (支那の夜 支那の夜よ) 西條八十 作詞・竹岡信幸 作曲・渡邊はま子 歌
- 13 上海だより (拝啓御無沙汰 しましたが) 佐藤惣之助 作詞・三界 稔 作曲・上原敏 歌
- 13 満洲娘 (私十六 満洲娘 春よ三月 雪解けに) 石松秋二 作詞・鈴木哲夫 作曲・服部富子 歌
- 13 麥と兵隊 (徐州徐州と 人馬は進む) 西條八十 作詞・竹岡信幸 作曲・東海林太郎 歌
- 14 出征兵士を送る歌 (わが大君に 召されたる) 生田大三郎 作詞・林 伊佐緒 曲
- 14 太平洋行進曲 (海の民なら 男なら) 横山正徳 作詞・布施 元 作曲・藤原義江・四家文子 歌
- 15 紀元二千六百年 (金鷄輝く 日本の 榮ある光 身に受けて) 増田好生 作詞・森義八郎 作曲
- 15 誰か故郷を想はざる (花摘む野邊に 日は落ちて) 西條八十 作詞・古賀政男 作曲・霧島昇 歌
- 15 蘇州夜曲 (君がみ胸に 抱かれてきくは) 西條八十 作詞・服部良一 作曲・李香蘭 歌
- 15 湖畔の宿 (山のさびしい みづうみに) 佐藤惣之助 作詞・服部良一 作曲・高峰三枝子 歌
- 15 曉に祈る (あゝあゝあ の顔で あの聲で) 野村俊夫 作詞・古關裕而 作曲
- 15 空の勇士 (恩賜の煙草 いただいて) 大槻一郎 作詞・藏野今春 作曲
メロ事件で活躍した松村飛行隊を讃へた歌。「たたーたーた」といふ反射リズムが特徴的
- 15 月月火水木金金 (朝だ夜明けだ 潮の息吹き) 高橋俊策 作詞・江口夜詩 作曲
- 17 空の神兵 (藍より蒼き 大空に 大空に) 梅木三郎 作詞・高木東六 作曲
- 17 新 雪 (紫けむる 新雪の) 佐伯孝夫 作詞・佐々木俊一 作曲・灰田勝彦 歌
- 17 湯島の白梅 (湯島通れば 思ひ出す) 佐伯孝夫 作詞・清水保雄 作曲・小畑 實 藤原亮子 歌
- 18 加藤隼戦闘隊 (エンヂの音 轟々と) 田中林平 作詞・原田喜一/岡野正幸 作曲
- 18 若鷺の歌 (予科練の歌) (若い血潮の 予科練の) 西條八十 作詞・古關裕而 作曲
- 19 同期の櫻 (貴様と俺とは 同期の櫻) 帖佐 裕 編詞・大村能章 作曲
- 19 丸い海軍航空隊 (銀翼連ねて 南の前線 揺るがぬ護りの 海鷺達が) 佐伯孝夫 詞・古關裕而 曲
- 19 ラバウル小唄 (さらばラバウルよ また来るまでは) 若杉雄三郎 詞・島口駒夫 作曲
- 20 お山の杉の子 (昔、昔のその昔) 吉田テ子 作詞・サウ・ハチロー 詞・佐々木さる 作曲
戦災で親を失った子供たちを勵ます趣旨の歌
- 21 リンゴの歌 (赤いリンゴに くちびるよせて) サウ・ハチロー 作詞・萬城目 正 作曲・並木路子 歌
- 23 異國の丘 (今日も暮れゆく 異國の丘に) 増田幸治 作詞・佐伯孝夫 補作・吉田 正 作曲 (18頃)
- 24 青い山脈 (若く明るい 歌聲に) 西條八十 作詞・服部良一 作曲・奈良光枝 藤山一郎 歌
→ 軍歌も「流行歌の一種」として歌つてゐた戦時中の日本國民……

我々が中學三年生の學徒勤勞動員中に屢々歌つたのが、非軍歌の數々……
戦争中も、世の中ちつとも暗くなんかなかつた。消費物資は食糧を含めて不足勝ちだつたが、
我々は物静かに耐えて毎日を送つてゐた